



中学校鑑賞授業 ハンドブック



このハンドブックは、平成 28 年度教員長期研修において、所属校で活用した「鑑賞授業モデル」についてまとめたものです。「鑑賞授業モデル」の六つの手立てについて、実践的に使えるような例を交えながら鑑賞授業の流れを示しています。本書が、中学校の鑑賞授業をよりよくするために御活用いただければ幸いです。

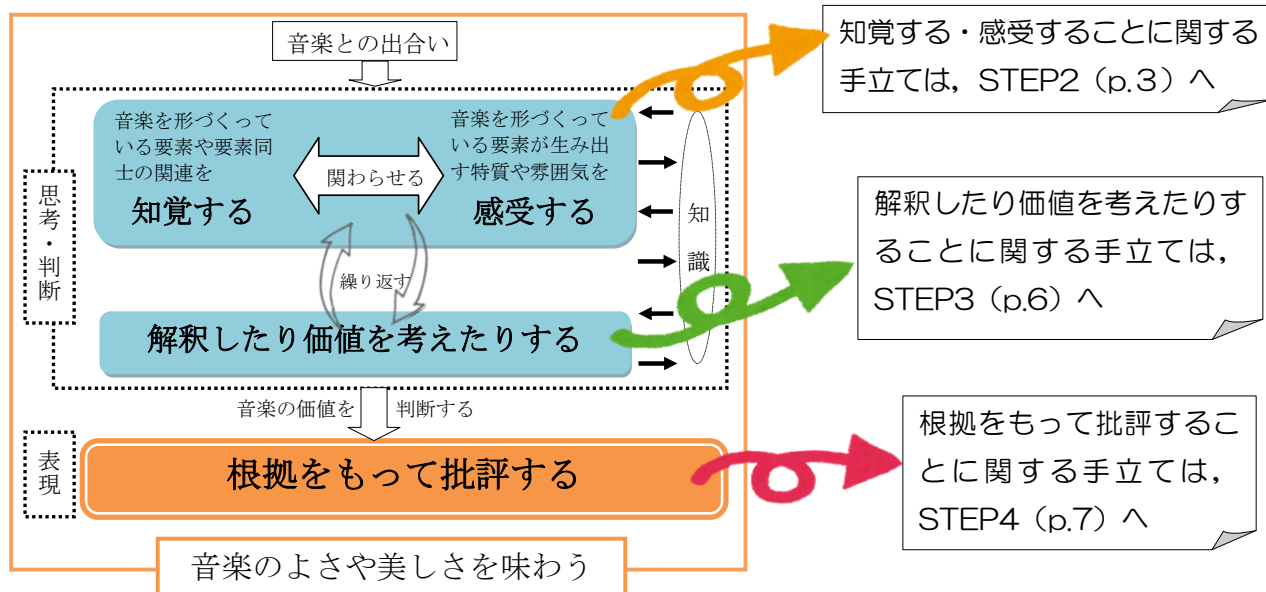
三原市立第一中学校 小川大輔

○目次○

STEP1	・ 鑑賞の学習の流れ	p.2
STEP2	・ 知覚・感受の充実のために	p.3
STEP3	・ 音楽の価値を判断するために	p.6
STEP4	・ 根拠をもって批評する力を付けるために	p.7

・鑑賞の学習の流れ

中学校学習指導要領や芸術ワーキンググループにおける審議の取りまとめなどを参考に、鑑賞の学習過程を下の図のようにまとめました。鑑賞の目標である「音楽のよさや美しさを味わう」までにいくつかの段階があることが分かります。



♪ ♪ コラム① ♪ ♪

知覚・感受についておさらいしておきましょう。

知覚・感受とは、知覚は**音楽の要素（客観的なこと）を聴き取る**ことで、感受は**音楽の要素が生み出す質的内容（主観的なこと）を感じ取る**ことです。例えば…

知覚したこと

バイオリンの音色が聴こえる

長調だけど、途中で短調の部分があるな

子供の旋律の音程がだんだん上がっていった

伴奏のリズムが細かいな



ヴィヴァルディ作曲
『四季』より「春」
を聴いて



感受したこと

さわやかな春をイメージできる気がするな

気分が落ち着く感じがする

何かが迫ってきて逃げている感じがする

暗い洞窟にいる気がする

シューベルト作曲
歌曲「魔王」を
聴いて



知覚・感受したことは、鑑賞の学習の支えになります。また、知覚・感受するときには、次の八つの要素に着目させることで、生徒の音楽を聴く力を育てることができます。

音色

リズム

速度

旋律

テンション

強弱

形式

構成

・ 知覚・感受の充実のために

知覚・感受を充実させる方法その1 要素の明確化

音楽の中で、要素は複雑に絡み合っており成り立っています。その中から、教師は教材研究時に目標やねらいに応じて扱う要素を絞り込み、整理しておく必要があります。その際に使う教師が用いるシートを示します。

題材名と教材名を書き込みます。

生徒全員に分かってもらいたい要素を絞り込みます。

題材名 『教材名』	例 重なり合う旋律の面白さを味わおう 『フーガ短調』（バッハ作曲）	
扱う要素	音楽における働き	既習事項
・ 音色 ・ 形式 ・ 旋律	・ パイプオルガンの響きのある荘厳な音色 ・ フーガ ・ 追いかけるように重なる ・ 短調と長調の旋律	・ 「春」弦楽器の音色 ・ リトルネッロ形式 ・ 「魔王」短調と長調の旋律

その要素に関わる既習事項を整理します。題材と題材のつながりも見え、系統性をもった指導につながります。

扱う要素の音楽における働きを整理します。授業ではこの欄に記入した音楽における働きについて、生徒全員に理解できるように指導していきます。生徒はこれらの働きを知覚・感受することで、音楽のよさや美しさを味わっていくことになります。

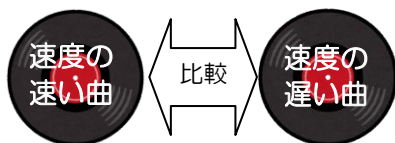
ポイント

- 扱う要素を明確に整理すると、生徒全員に身に付けさせたい力がはっきりします。

知覚・感受を充実させる方法その2 比較聴取

比較することで、音楽における要素の働きについて、生徒が知覚・感受しやすくなります。

例1 速度の効果を知覚・感受させたい



例2 形式を知覚・感受させたい



例3 弦楽器の音色を知覚・感受させたい



例4 諸民族の音楽の特徴を知覚・感受させたい



ポイント

- 比較させるときには、着目させたい要素に相違点や共通点のある音楽を聴かせていくことで、生徒の知覚・感受を促すことができます。

知覚・感受を充実させる方法その3 言語シート

知覚・感受するときに、音楽室などに掲示したり、生徒に配ったりして使用します。

聴き取ったことを表す言葉

音色	楽器の音色 声の音色 やわらかい 固い 高い 低い 鋭い 鈍い 太い 細い 響く
リズム	はすむ 一定の すれる 細かい 不規則 ○拍子の 拍のある 拍のない ノリのある 間がある 付点
速度	速い 遅い ゆったり だんだん 保つ とても 急に ○○の速度 対比
旋律	つながる 跳ぶ 高い 低い 上がる 下がる 長調 短調 長い音 短い音 かけあい ○○のフレーズ
力加減	重なる すれる 和音 ハーモニー
強弱	強い 弱い 大きい 小さい だんだん とても 保つ 急に 対比
形式	～の部分 続く 終わる
構成	くり返す 変化する 対照的な 呼びかけたり応えたり
その他	はっきりとした あいまいな ぼんやりとした 擬音語で示す (カンカン、そよそよ、せかせか)

感じ取ったことを表す言葉

比喩を使う ○○のような
例 遊園地にいるような お話するような

情景をイメージする 誰が? 何が? どこで? いつ? ...
どんな風に? 季節は? 時間帯は? 場所は?
何人で? どんな物語? どんな展開?
例 夏の屋下がり、二人の子供が草原ではしゃいでいる

気持ちや気分を表す 自分の気持ちや気分を、次の表を参考にして表そう...

分類	感じ	分類	感じ	分類	感じ
楽しい	楽しい	激しい	激しい	優しい	優しい
	嬉しい		迫力がある		やわらかい
	うきうきした		盛り上がる		いつくしむ
	明るい		華やかな		かわいらしい
	元氣な		バワフルな		優雅な
悲しい	スキャンとする	情熱的な	にぎやかな	甘い	うっとりするような
	生き生きとした	輝かしい	あたたかい		
	鮮やかな				
悲しい	悲しい	怖い	怖い	力強い	力強い
	寂しい		あやしい		堂々とした
	切ない		恐ろしい		勇ましい
	むなしい		絶望的な		壮大な
	重苦しい		不気味な		重たい
暗い	不安な	弾むような			
冷たい	ぞっとする	はつらつとした			
落ち着いた	落ち着いた	静かな	静かな	その他	美しい
	和む		さわやかな		歌うような
	穏やかな		ささやかな		躍りたくなる
	のんびりした		繊細な		緊迫感のある
	あたたかい		ふんわりとした		ゾクゾクする
のどかな	不思議な	おどけた			
ほらかな	ふわふわした	とびはねている			
どっしりした			軽快な		

※空欄には新しく知った言葉をどんどん埋めていこう!

なんか音が...
リズムが速い?

聴こえていてもどう表現すればよいかが分からないときの助けになります。

小人たちが遊んでいるみたいだな
のどかだな

感受する力を育てて、生徒たちの感性を豊かにしよう。

ポイント

- 言葉に表すことが得意な生徒にも、新たに得た言葉を書き加えるなどして活用できます。
- 最終的には、これらのシートを使わなくても言語化できることを目指します。

♪ ♪ コラム② ♪ ♪

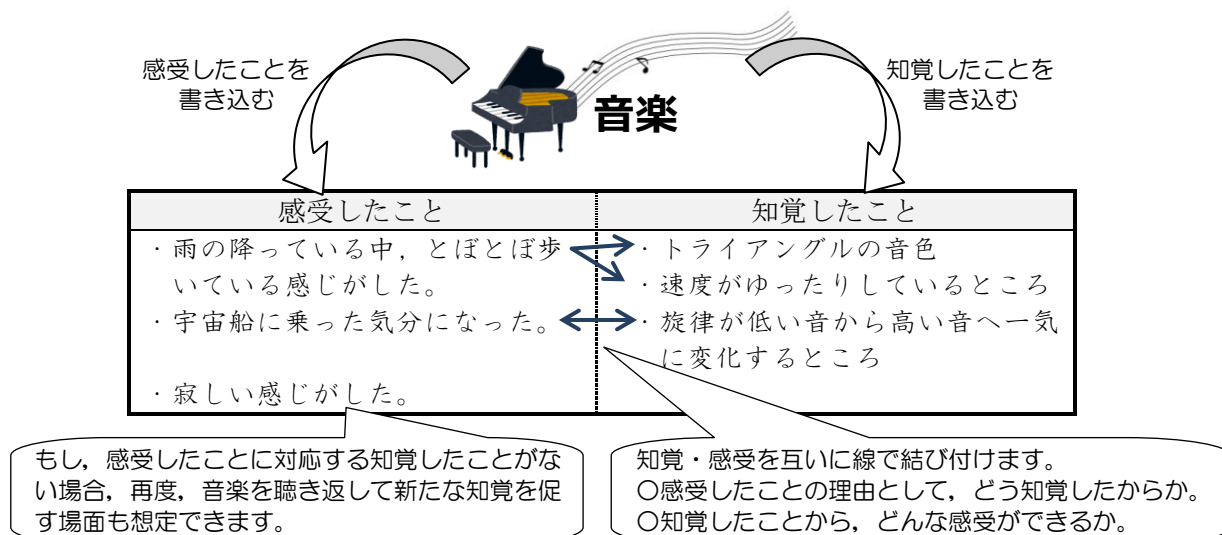
生徒は、音楽の要素を適切に用いることができていることが多くあります。研究の中で実際に出生徒の例を用いて、どう直したらよいか考えてみました。

- 速い音と遅い音が切り替わっていくような形式 ⇒ 速い部分と遅い部分が交互に出てくる構成
- リズムが速くなったり遅くなったり ⇒ 速度が速くなったり遅くなったり
- ⇒ リズムが細くなったり伸びたり

教師自身も音楽の要素を適切に用いる方法を考えていくことが大切です。

知覚・感受を充実させる方法その4 知覚と感受を関わるせること

知覚と感受は常に関わらせて音楽に向き合うことが大切です。そのための方法として、生徒の発言などを教師が整理するときの板書や生徒に直接書き込ませるワークシートとして使える型を示します。



ポイント

- 関わるせることを意識することで、音楽を認識させやすくなります。
- この型を継続的に使うことで、生徒の知覚・感受することへの意識を高めることができます。

♪♪ コラム③ ♪♪

STEP3に入る前に、音楽の価値を判断することについて確認しておきましょう。

音楽の価値を判断するとは、知覚・感受し、背景などの知識を理解するなどして、音楽を捉え直すことによって、新たな価値を見いだしていくことだと整理できます。

例として、アフリカの音楽を鑑賞する場合*の音楽の価値を判断することについて考えてみます。リズムが躍動的なアフリカの音楽を聴いて、生徒が「この音楽は聴いている人をワクワクさせる」「きっと楽しい気持ち」と解釈したとします。このタイミングで、この音楽を受け継いできたアフリカの人々の苦しい歴史的背景を知り、その苦しさの中にあっても、このような音楽を表現し続けたと学びます。すると、生徒は「悲しみを乗り越える強さを生み出す音楽」「自由を願う心の叫び」のように、音楽に対する解釈が更新していきます。

このように知覚・感受し、知識を理解するなどして、音楽を捉え直すと、生徒は新たな価値を見いだします。これは鑑賞の目標である「よさや美しさを味わう」ことにつながっていきます。

※参考文献：臼井学「中等教育資料平成27年4月号」

・音楽の価値を判断するために

価値判断をさせる方法その1 他者との対話

他者と対話することによって、知覚、感受、価値意識を更新させていくことができます。

話し合いのコツ①

何を交流するのかを明確にする！

- 例・感受を深めさせたい！
「どんな感じがするか交流しよう」
- 例・知覚を深めさせたい！
「この曲が怖いと思うのはなぜだろう」
- 例・価値意識を深めさせたい！
「この曲のよさについて交流しよう」



話し合いのコツ②

自分の考えを明確にさせておく。

話し合いのコツ③

他者の意見を聞いたときに、新たな発見があったことについて、ワークシートに色分けなどしながら記入させる。

ポイント

- 特にコツ①が重要です。記述したことを順番に話すだけであったり、話題がそれていったりすることのないように、何を交流するのかを明確にすることが大切です。
- 思わず自分の思いを話したくなるような場面を設定しましょう。そのためには、教材研究の段階で、生徒の心が動くような音楽の聴かせ方を考えておく必要があります。

価値判断をさせる方法その2 音楽の価値を引き出す発問

生徒に音楽の価値について直接聞くことで、音楽の価値を引き出します。



例1 この曲のよさや魅力は何でしょうか？

例2 この曲の中で、気に入った所はどこでしょうか？

例3 この曲の中でから、印象に残った場面を挙げてみましょう。

例4 （複数の曲の中から）気に入った曲はどれですか？



上記の例1～4の発問とセットにして、必ず次のことも生徒に問いましょう。

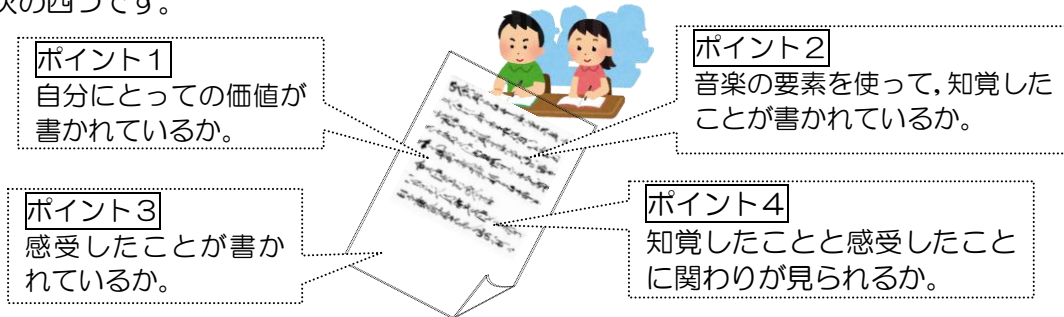
なぜそう思ったのか、音楽の要素を用いながら理由を説明しましょう。

ポイント

- 音楽の価値の表出を繰り返すことで、生徒が主体的に音楽に関わることにつながります。
- 批評文を書かせる際の発問として設定することもできます。

・ 根拠をもって批評する力を付けるために

生徒が音楽のよさや美しさを味わったかどうかを確認できるのが批評文です。批評文を書かせるポイントは次の四つです。



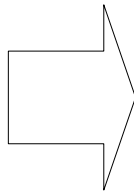
具体的な根拠をもって批評する例を二つ示します。左側の批評文は上記の四つのポイントを満たしていません。それを四つのポイントを満たすように、右側に作り直しました。

例 ♪ベートーヴェン作曲

交響曲第五番ハ短調



ベートーヴェンは、耳が聞こえない中でこの曲を作曲しました。苦しみ乗り越えて、音楽に希望を見いだそうという思いが伝わってきて、とても感動しました。



第一楽章では、運命の動機のリズムが反復したり重なり合ったりして複雑に絡み合いながら構成されていて、運命の厳しさが感じられます。逆に第四楽章では、長調で華やかな旋律が奏でられ、苦難を乗り越えた喜びが感じられます。作曲者が音楽に込めた希望が伝わってきて印象に残りました。

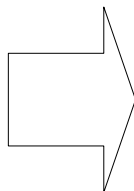
点線は知覚したこと、波線は感受したこと、
二重線は自分にとっての音楽の価値を示しています。

例 ♪スメタナ作曲

交響詩「ブルタバ」



この曲は全部で七つの場面から成り立っています。木管楽器の柔らかな音色から始まり、最後にはオーケストラ全体で壮大な川の流れを表現しています。



この曲の魅力は、オーケストラの多彩な音色によって壮大なブルタバの流れが想像できることです。特に気に入ったのが、ブルタバの流れの短調のメロディーが、最後に長調になって表れたところです。厳しい急流を通り抜けて、壮大に海に流れ出ていく川をイメージすることができました。

点線は知覚したこと、波線は感受したこと、
二重線は自分にとっての音楽の価値を示しています。

ポイント

- 根拠をもって批評することで、生徒がより音楽のよさや美しさを味わうことができるように教師が意識しておくことが大切です。